

木もれ陽

文責 平川 千秋

「緊急事態宣言」を受けて

4月6日に始業式を迎え、令和2年度がスタートしたと思った途端、夜に安倍首相から初の「緊急事態宣言」が発表され、7日に規模を縮小した入学式を実施、8日は慌ただしく身体測定や写真撮影を行い、翌9日から臨時休校に入りました。そして、当初5月7日に学校再開を予定していたのですが、未だ収束の兆しが見えないため、成田市立小中義務教育学校は5月末まで休校が延長されました。ましてばらく外出や人と会うことを制限された生活が続きますが、皆さん体調はいかがですか。



“さあ新年度！”と気持ちを引き締め、あれを頑張ろう、これもやってみようと思や希望を抱いたであろう皆さんと会えなくなったことは、本当に切なく、もどかしく、静まりかえった校舎内はまるで気の抜けた炭酸飲料のようで、先生方の足音だけが響く「寂しい玉中」になってしまいました。でも、今、日本中の人々がこの国難を乗り越えるために必死に耐え、力を尽くしてくれています。私たちも我慢を重ねることで、必ずあのにぎやかな、穏やかな、わくわくする日常が戻ってくる、それを信じてもう少しのあいだ「STAY HOME」の日々を乗り越えようと思います。

休校中、皆さんの生活がどうなっているのか気になると同時に、テレビや新聞で報道される全国の学生の動向に目がいきます。人と対面するリスクを負いながら患者さんのために日夜頑張っている医療関係者に向けて、3Dプリンターを利用して手作りのフェイスガードを200以上も作成し、送付したという女子高生の話。勉強の合間に時間をかけて作ったというフェイスガードを受け取った歯科医さんは「涙が出た」と語っていました。

ともすれば、長く続く自粛生活にストレスがたまり、周囲にいらだちをぶつけたくなるようなことがあっても不思議ではない状況の中、周りに目を向け“誰かのために、今自分に何ができるか”を考え、実行に移した、その行動力に頭が下がります。

4月中は週に1度、担任の先生から健康安全確認の電話を入れましたが、その電話での会話に耳をすますと、先生方も声のトーンが一段上がっていてとてもうれしそうな様子が伝わってきました。電話越しに話をしている生徒の皆さんも同じくうれしかったり安心したりしてくれていたならありがたいです。今日からまた臨時休校が延長されますが、生活のリズムを整え、いつ学校が再開しても大丈夫なように新しい課題をしっかりと進めておいてください。今後の予定については、学校HPやマチコミメールをご確認ください。

*5月7日(木)8日(金)分の課題は学校HP上に掲載しました。

*5月11日(月)新しい課題と副教材を配布いたします。(昇降口・1階教室にて)

*5月12日(火)～5月22日(金)週1回・1時間程度の学習支援日を設けます。

*5月25日(月)～5月29日(金)週2回・2時間程度の学習支援日を設けます。

それぞれ学級ごとに細かく時間を区切り、場所を分散するなど「3密」には十分配慮して行います。詳細についてはHP及び5月11日に文書にて連絡いたします。